

平成 29 年度看護学科第 4 学年科目一覧

【前 期】

- ジェンダーの社会学
- 遺伝学
- 医療経済学
- 看護理論
- 看護システムマネジメント論
- 国際看護活動論
- 地域看護学演習Ⅱ
(地域看護活動)
- 地域看護学実習

【後 期】

- 英語Ⅲ(英論文の読解)
- 看護倫理Ⅱ(事例分析)
- 代替補完医療と看護
- 統合援助技術
- 防災教育論
- 地域看護管理論

【通 年】

- 国際看護フィールドワーク
- 統合実習
- 看護課題ゼミ
- 卒業研究

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
ジェンダーの社会学	一般教育科目	2単位 (15時間)	選択	4年次 前期	講義
	社会を知る				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 裊 智恵 [担当教員] 裊 智恵		授業終了後、教室あるいは講師室。			
授業のねらい	<p>この授業では、ジェンダーにかかわる多様な問題について、社会的な視点から講義します。ジェンダーに関連する基本的な概念・理論を学び、それらをもとに、家族、学校、職場、戦争など様々なテーマから、ジェンダーをめぐる諸論点について検討します。</p> <p>授業は基本的に講義形式で進めますが、DVD視聴、討論などを交えながら、学生全員が積極的に、楽しく参加できる授業にしたいと思います。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(□にチェックする)	<p>□①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p>□②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p>☑③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p>☑④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p>☑⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p>☑⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>① ジェンダーに関連する社会学の基本的な概念と用語、理論について説明できる。</p> <p>② 社会学の基本的な見方・考え方を身につける。</p>				
教科書	千田有紀・中西祐子・青山薫，2013，『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 ISBN9784641177161				
参考図書	加藤秀一・海老原暁子・石田仁，2005，『ジェンダー（図解雑学）』ナツメ社。 ISBN4816339027				
評価方法	Brief Report (60%)、授業への参加 [討論への参加、リアクションペーパー] (40%)の割合で評価します。				
課題に対するフィードバック	毎回の授業が始まる前、授業が終わった後のオフィスアワーでフィードバックします。				

科目コード【1304】

事前・事後学習	<p>事前学習：映画、小説、新聞記事などを、ジェンダーという視点で読むこと。それがどのように分析できるかを考えてみること。</p> <p>事後学習：講義で学んだ内容を自分の言葉で整理し、考えをまとめておく。</p> <p>事後学習には 30 分以上の時間を充てること。</p>
----------------	--

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	イントロダクション	授業の概要、日程、評価について説明する。 現時点において、各自考えている「ジェンダー」問題について話し合う。	斐 智恵
2	性別をとらえなおす	セックスとジェンダー、セクシュアリティの概念を確認	斐 智恵
3	家族とジェンダー (1)	近代家族とジェンダーの概念 ジェンダーの視点からみた未婚化・少子化問題	斐 智恵
4	家族とジェンダー (2)	近代家族とジェンダーの概念 ジェンダーの視点からみた未婚化・少子化問題	斐 智恵
5	労働とジェンダー	女性の労働と賃金格差 職務における男女格差	斐 智恵
6	教育とジェンダー	かくれたカリキュラム 教育における男女格差	斐 智恵
7	DVD 視聴	ジェンダーに関連する映画を視聴	斐 智恵
8	小討論	映画の内容をもとにした討論	斐 智恵
9	日常生活とジェンダー (1)	ストリートハラスメントとデート暴力 ドメスティックバイオレンス	斐 智恵
10	日常生活とジェンダー (2)	ストリートハラスメントとデート暴力 ドメスティックバイオレンス	斐 智恵
11	国家とジェンダー (1)	国民国家・人権とジェンダー 戦争と性暴力（従軍慰安婦の問題）	斐 智恵
12	国家とジェンダー (2)	参政権と政治参加における男女格差 グローバリゼーションとジェンダー	斐 智恵
13	身体とジェンダー	性と生殖に関する権利/買売春,セックスワーク,ポルノグラフィクィアとトランスジェンダー	斐 智恵

科目コード【1304】

14	フェミニズムとジェンダー	フェミニズムの歴史/フェミニズムがめざすもの	斐 智恵
15	まとめ	全体討論：授業の前と後で、ジェンダーについての考え方がどのように変わったのか、あるいは、変わらなかったのか。 質疑応答。	斐 智恵
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
遺伝学	専門基礎科目	1単位 (15時間)	必修	4年前期	講義
	病気と治療				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
【科目責任者】 大屋敷純子 【担当教員】 河島尚志、林由起子、沼部博直、萩原剛、稲垣夏子		科目責任者のオフィスアワー：各講義の終了後10分。それ以外は質問等に対してメールで対応（講義時にアドレスを周知します）			
授業のねらい	遺伝学の知識は一部の遺伝病のみならず、生活習慣病やがんなどのありふれた病気の看護において必要不可欠であり、ヒト個体の多様性を理解するために、臨床遺伝専門医が医療に必要な知識を講義する。遺伝子変異と疾患発生との関係を学ぶのみならず、遺伝医療にともなう倫理的・法的・社会的問題（ELSI：Ethical Legal and Social Implications）、遺伝カウンセリングなど患者や家族の支援に必要な看護の役割を学ぶ。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 代表的な疾患について遺伝様式を理解できる。 2. 遺伝カウンセリングの必要性を説明し、カウンセリングにおける看護の役割を理解することができる。 3. 遺伝医療の支援を必要とする患者と家族のニーズに答えられる看護の役割について説明できる。				
教科書	トンプソン&トンプソン 遺伝医学（原著8版）（Roderick L. Nussbaum 他著、福嶋義光 監訳）メディカル・サイエンス・インターナショナル、2017				
参考図書	「遺伝カウンセリングマニュアル[改訂第3版]」（福嶋義光 監修、櫻井晃洋 編集）南江堂、2016				
評価方法	定期試験 100%				

科目コード【2110】

課題に対する フィードバック	定期試験終了後、正解と解説を提示し、質問に関しては担当者が対応する。
事前・事後学習	すべての病気が遺伝子レベルで解明されて来た今日、医療の現場では正しい遺伝学の知識が求められている。遺伝カウンセリングは医師、遺伝カウンセラー、看護師がチームで行うので、その重要性を理解している人に受講して頂きたい。事後学習が重要である。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	遺伝医学入門（概論と基礎知識）	看護において遺伝医学を学ぶことの重要性 家系図の描き方、染色体・DNA・遺伝子 単一遺伝子疾患と遺伝形式とその発症機序	沼部 博直 ①
2	遺伝学的検査と遺伝子診断	細胞学的遺伝子検査と分子生物学的遺伝子検査 遺伝学的検査結果の意味すること	沼部 博直 ②
3	生殖医療と出生前診断	カウンセリングに必要な生殖補助医療の知識 出生前診断を考える	沼部 博直 ③
4	遺伝カウンセリング	遺伝学的検査結果開示や病名・病状開示 遺伝カウンセリングとは何か	沼部 博直 ④
5	各論 I: 神経疾患	神経変性疾患について 筋ジストロフィー・ミオパチーについて	林 由起子
6	各論 II: 小児科領域 (染色体異常を含む)	染色体異常の分類、ダウン症候群、ターナー症候群、ブラダーウィリー症候群など	沼部 博直 ⑤
7	各論 III: 血友病	単一遺伝子疾患の代表として血友病を学び、 遺伝性疾患の特徴や問題点を理解する	萩原 剛
8	各論 IV: 多因子遺伝 遺伝医学総括	看護の現場において多く遭遇する「がん、生活習慣病」などありふれた病気と遺伝との関係を理解する	稲垣夏子／ 大屋敷純子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
医療経済学	専門基礎科目	1単位 (15時間)	選択	4年前期	講義
	保健医療福祉のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 川渕 孝一 [担当教員] 川渕 孝一		看護学科学務課を通して質問を受ける。 但し、緊急の場合は E-mail:kawabuchi.hce@tmd.ac.jp に連絡されたし。			
授業のねらい	<p>医療の役割は苦痛の除去のみならず、豊かな食生活、良好な人間関係といった生活の質に深く及んでいる。文字通り「治しを支える医療」のあり方について改めて考えるとき、これまでの議論があまりにも政治力学や医療関係者の利害といった動機から出たものが多すぎた。その結果として、肝心の国民の実態、医療が社会に還元した医学の成果という最も基本的な視点が確立されていない。</p> <p>そこで本授業では、医学、歯学、看護、介護、薬学などに「横申し」を入れる。より具体的には、医療経済学の視点から忘れがちだった医療の成果を学際的に再確認しながら、わが国の医療制度のあるべき姿を、国民の視点から探る。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<p><input checked="" type="checkbox"/>①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<p>すべてが不確実だと言われる時代においてわが国に未曾有の少子・高齢社会が到来することは確実である。しかしながら、医療分野は、規制が多く産業構造も複雑なので、未だ前近代的な部分が散見される。そこで本授業では、医療の質の向上と経営の効率化の同時達成を実現する人材育成を目指して、ヘルスケア分野における成功の鍵を探る。</p> <p>より具体的には、医療界で起こっている現象をマクロ・ミクロ経済の視点から分析する。到達目標は次の3点とする。</p> <p>①医学、歯学、看護、介護、薬学などを経済的視点から横断的に学習できる。</p> <p>②効率的な医療・介護・福祉のあり方について政策提言ができる。</p> <p>③医学、看護、経済、経営、会計など各種の専門性の融合と相互発展をすることができる。</p>				

科目コード【2206】

教科書	川渕孝一著「“見える化”医療経済学入門」2014年（医歯薬出版株式会社） 最終回使用する川渕孝一著「国民皆保険はまだ救える」2011年（自由工房） のP.24～P.40については事前にコピーして配布するので購入の必要はない。
参考図書	「病院の品格」2008年（日本医療企画）、「医療再生は可能か」2008年（ちくま新書）、「第六次医療法改正のポイントと対応戦略60」2014年（日本医療企画）、「地域包括ケアシステムの成功の鍵」2015年（公益財団法人日本都市センター）、「2040年の薬局」2016年（薬事日報社）
評価方法	授業参加 40%（8回×5%）＋最終発表 60%
課題に対するフィードバック	最終回の授業中に参加者と一緒にフィードバックする。
事前・事後学習	医療経済に関する双方向の講義に努めるが、学生諸君には単なる出席ではなく積極的な授業参加を期待する。また、最終回に事例研究を通じた発表会を開催するので上記に指定した教科書の章・参考図書を毎回60分以上事前学習することを勧める。 あわせて、介護福祉経営士（2級）並びに医療経営士（3級）の受験も目指す。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	1) 国民医療費の構造分析 2) わが国の診療報酬制度の現状と課題 (教科書の第1,2,11章)	①国民医療費の負担、②国民医療費の分配、 ③国民医療費の使途を確認 ①混合診療禁止の原則、②保険外併用療養費制度、③「一物一価」の功罪などを学習する。	川渕 孝一
2	1) 公的医療保険の守備範囲と医療費分析 2) 予防政策と医療費適正化 (第3,4,12,13章)	一体全体「どこまで公的医療保険で面倒見るべきなのか」国民皆保険制度の持続可能性を議論するとともに、①年齢階級別・疾病分類別医療費分析、②終末期医療費の見える化、③高齢者透析に関する医療経済分析を体得する。 ①米国のMHSプロジェクトの結果、②無作為比較化試験（RCT）による分析、③わが国における減量指導にみるメタボ対策の効果、④OTC国民調査から得た知見、⑤ワクチン行政の現状と課題を紹介する。	川渕 孝一
3	1) DPC/PDPSの現状と課題への示唆 2) DPC導入と外来抗がん剤治療	①DPCの功罪と、②解消すべき課題について言及する一方、③DPC/PDPSによる外来シフトの有無、④外来抗がん治療の現状と課題に	川渕 孝一

科目コード【2206】

	の変化 (第 5,6 章)	について理解する。	
4	1) “医療の見える化”の現状と課題 2) クリニカルパスと医療の標準化 (第 7,8 章)	①米国の P4P の先行事例、②本分野における“病院可視化ネットワークの試み”、③P4P による行動変容などを通じて、質の向上と効率化の同時達成の実現可能性を探る。 ①電子パスの課題とその解決策、②医療安全に向けた可視化の試み、③医療事故防止対策、④パスの科学的根拠を学習する。	川渕 孝一
5	1) 医療の量的効果 2) 医師の技術料の国際比較 (第 9,10 章)	①“規模の経済”、②量的効果に関する先行研究から得た知見を紹介する。 診療報酬体系の日米比較を通じて「望まれる適正な技術料とは何か」を考える。	川渕 孝一
6	地域包括ケアシステムに見る“範囲の経済”について救急医療と精神医療を含めて総合的に検討する。 (第 14,15,16 章)	地域包括ケアシステムの先進事例について考察するとともに精神科の診療報酬の適正性及び救急医療の現状と課題について一定の考察を加える。	川渕 孝一
7	グローバルヘルスサービスが抱える諸課題を学習する。 (第 17 章)	①オバマケアの功罪、②北欧における構造改革、③中国・タイにおける医療格差、④バングラディッシュにおける少額医療保険について学習する。	川渕 孝一
8	事例研究	拙著「国民皆保険はまだ救える」の P. 24～P. 40 の事例を読んで「何が真因でどうすれば問題解決するか」を参加者全員の前で口頭発表する。	川渕 孝一
一	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護理論	専門科目	2単位 (15時間)	選択	4年前期	講義
	看護の基礎				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 岡谷恵子 [担当教員] 岡谷恵子		講義終了後の2時間 第一看護学科棟4階414研究室 メールでも質問等を受け付けます。 E-mail : keiokaya@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	この科目では、理論とは何かを理解し、看護実践の基盤となる代表的な理論について深く探求すること、看護理論の著書を熟読し、内容を理解する努力を通して、抽象的な現象を思考する力を養うことをねらいとする。また、具体的な看護の事象や自らの実習体験と理論を関連づけて考えてみることを通して、看護の理論を実践に応用することの意味を理解できるようになることを目指す。また、授業を通して、自分自身の看護実践の基盤となる理論を見つけられるようになることを目指す。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	✓①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 ✓②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	① 知識・理解 1. 理論とは何かが理解できる。 2. 代表的な看護理論の著書を読み、内容を理解できる。 3. 看護の理論を実践に応用することの意味を理解できる。 ① 思考・判断 1. 自分の実習体験と理論を関連づけて考えることができる。(概念化) 2. 実習体験を一つのストーリーとして記述することができる。				
教科書	筒井真優美編集；看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2015年				
参考図書	フォーセット；看護理論の分析と評価 新訂版、医学書院、2008年 野川道子編著；看護実践に活かす中範囲理論、メジカルフレンド社、2010年				

科目コード【3104】

	中村雄二郎著;臨床の知とは何か、岩波新書、1992年 マイケル・ポランニー著;暗黙知の次元、ちくま学芸文庫、2003年
評価方法	レポート100%
課題に対するフィードバック	レポートにコメントを入れて返却する。
事前・事後学習	事前学習:授業で理論の内容について議論するために、事前に提示された著書の範囲を必ず熟読し、何が書かれているかを要約しておくこと。また意味がわからない表現や概念を書き出し、調べておくこと。 事後学習:授業で抄読した箇所、わからない部分について再度自分で調べ、次の時間に質問できるように準備しておくこと。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	看護学とは 看護学における理論	<ul style="list-style-type: none"> 看護学と諸科学との関連 看護のメタパラダイム 看護の概念モデル 理論と実践の関係 	岡谷恵子
2	看護理論の発展の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論の発展の歴史とその経緯 看護理論の発展と時代背景との関連 看護理論の主要なテーマ 	岡谷恵子
3	看護が扱う主要な概念	<ul style="list-style-type: none"> 今までに学習した看護の実践で用いられていた主要な概念の意味と実践での活用例 	岡谷恵子
4			
5	主要な看護理論の構造、内容の理解	<ul style="list-style-type: none"> 5つのグループに分かれて、それぞれのグループが主要な看護理論を選択し、その著書を読む。 看護のメタパラダイムに沿って、内容をまとめる。 各グループが読んだ看護理論について、それがどのような理論なのかを発表する。 5つの看護理論を比較して、理論の違いや特徴を理解する。 	岡谷恵子
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12	看護理論と看護実践の関係の吟味	<ul style="list-style-type: none"> 学生自身の実習体験を、読んだ看護理論を使って説明してみる。 	岡谷恵子
13			
14	看護観のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の最も印象に残っている実習場面、エピソードをストーリーとして記述する。 	岡谷恵子
15			
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護システム マネジメント論	専門科目	2単位 (15時間)	必修	4年前期	講義
	看護提供のしくみ				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 阿部祝子 [担当教員] 阿部祝子 小野田舞		講義終了後または事前にアポとって研究室に来てください 連絡先 阿部祝子： 小野田舞：m-onoda@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	より質の高い看護サービスを提供するために看護管理者が求められて役割である「医療と看護の質の保証」「人的資源管理」「効率性の追求」を中心に諸理論をもとに具体例を提示しながら看護管理について考える。特に、看護の質に大きく関わる看護職員のキャリア開発について、学生自身のキャリアプランの検討しつつ考える。以上により、看護を円滑に実践するための基本的なマネジメント能力の習得をめざす。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 経営と管理に関わる諸理論の概要を説明できる 2. 保健医療福祉の現状とその環境の中における看護の役割を説明できる 3. 看護の質保証とその評価の意味と方法を説明できる 4. 我が国における保健医療福祉制度の現状をふまえた、望ましい病棟とそのマネジメントについて検討し、自身の言葉で語る事ができる				
教科書	デジタルナースンググラフィカ 38 看護管理：メディカ出版 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理：医学書院				
参考図書	デジタルナースンググラフィカ 16 社会福祉と社会保障・17 医療関係法規・39 医療安全 メディカ出版				
評価方法	レポート 60% 課題・ミニレポート 30% グループワーク貢献 10%				
課題に対するフィードバック	講義中に、ミニレポートに対するフィードバックを行う。				
事前・事後学習	これまでに学んだ看護管理に関連する科目を復習してから受講すること。 必要な資料や情報を収集してからグループワークに臨むこと。				

科目コード【3401】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	看護マネジメントに関わる諸理論の概説 1	看護におけるマネジメントとは	阿部
2	看護マネジメントに関わる諸理論の概説 2	組織論の基礎	阿部
3	看護マネジメントに関わる諸理論の概観 3	リーダーシップ論の基礎	阿部
4	看護マネジメントに関わる諸理論の概観 4	看護における人的資源マネジメント	阿部
5	看護マネジメントに関わる諸理論の概観 5	チームで担う医療と看護マネジメント	小野田
6	行政と看護 1	厚生労働省、看護協会、看護系学会の位置づけ	小野田
7	行政と看護 2	医療トピックスと診療報酬改定	小野田
8	医療・看護の質保証とその評価 1	医療・看護の質, 質の評価, 質の保証とは	阿部
9	医療・看護の質保障とその評価 2	情報の活用	阿部
10	医療・看護の質保障とその評価 3	組織文化	阿部
11	医療・看護の質保障とその評価 4	看護における経営・経済的視点	阿部
12	あなたが看護管理者だったら？ グループワーク 1	望ましい病棟（理想的な病棟環境）を考える 望ましい看護職人材育成プラン（キャリア開発）を考える	阿部・小野田
13	あなたが看護管理者だったら？ グループワーク 2	望ましい病棟（理想的な病棟環境）を考える 望ましい看護職人材育成プラン（キャリア開発）を考える	阿部・小野田
14	あなたが看護管理者だったら？ グループワーク成果発表 1	望ましい病棟（理想的な病棟環境）を考える 望ましい看護職人材育成プラン（キャリア開発）を考える	阿部・小野田
15	あなたが看護管理者だったら？ グループワーク成果発表 2 表彰式	望ましい病棟（理想的な病棟環境）を考える 望ましい看護職人材育成プラン（キャリア開発）を考える	阿部・小野田

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
国際看護活動論	専門科目	1単位 (30時間)	必修	4年前期	演習
	グローバルヘルス				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 成瀬和子 [担当教員] 成瀬和子		講義終了後			
授業のねらい	<p>グローバル化社会のなか人々を取り巻く環境は変化しそれに伴い健康課題も変化し健康格差は拡大している。その様な中での看護職のあり方を考えるために、国際看護(及び国際保健)と異文化間看護に関する基本的概念を学ぶ。世界の人々の健康と保健、医療の現状から、人々の健康に影響を与えている民族・宗教・政治経済など社会文化的な要因について理解を深め、グローバルな視野に基づき、日本国内外において、看護師として異なる文化を持つ人々への看護や諸外国への国際看護実践について考える。</p>				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<p>□①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。</p> <p>□②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。</p> <p>□③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。</p> <p>■④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。</p> <p>□⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。</p> <p>■⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護を学ぶ意味を理解できる。 2. 世界における健康格差の状況とその社会的要因を理解し、地域特性とあわせて健康課題を考えることができる。 3. 健康格差解消と社会開発のための取り組みについて知る。 4. 国際保健で課題となっている主な疾病負担 (burden of disease) とその対策を知る。 5. 社会と医療のグローバル化における看護職の活動を知る。 				
教科書	日本国際保健医療学会編、国際保健医療学第3版、杏林書院、2013.				
参考図書	丸井英二、森口育子、李節子編、国際看護・国際保健、弘文堂、2012. レイニンガー、稲岡文昭監訳、レイニンガー看護論 文化ケアの多様性と普遍性、医学書院、1995.				

科目コード【3503】

	<p>田村やよひ編、新体系看護学全書 看護の統合と実践3 国際看護学、メヂカルフレンド社、2012.</p> <p>南裕子監修、国際看護学 グローバル・ナーシングに向けての展開、中山書店、2013.</p> <p>守本とも子監修、国際看護への学際的アプローチ、日本放射線技師会出版会、2010.</p> <p>近藤麻里、知って考えて実践する国際看護、医学書院、2011.</p> <p>デビッド・ワーナー、医者のないところで 村のヘルスケア手引書 2009年版、シェア=国際保健協力市民の会、2009.</p>
評価方法	<p>配分：試験60%、GW20%、出席点20%</p> <p>20分以上の遅刻は欠席として扱う。</p>
課題に対するフィードバック	<p>講義内でコメントする。</p>
事前・事後学習	<p>毎回講義前に教科書の関連部分を通読する。またキーワードの意味を調べておくこと。授業後に各回の学習目標にそって授業内容をまとめておくことを勧める。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	グローバルヘルスと国際看護を学ぶ意義	<p>1)人口問題と疾病構造の変化</p> <p>2)グローバルイゼーションと健康</p> <p>3)人間の安全保障</p> <p>4)国際保健・国際看護の概念</p>	成瀬 和子
2	健康の社会的決定要因と健康への影響	<p>1)健康の社会的要因</p> <p>2)健康格差の実際と解消への取り組み</p>	成瀬 和子
3	世界における健康格差:主要な疾病負担の地域・国家間比較	<p>健康格差について健康課題を通して学ぶ</p> <p>1)非感染症</p> <p>2)感染症</p> <p>3)子どもの健康</p> <p>4)リプロダクティブヘルツ/ライツ</p> <p>5)HIV/AIDS</p>	成瀬 和子
4	国際保健における健康格差是正のための取り組み	<p>世界的枠組みでの取り組みについて学ぶ</p> <p>1)MDGs</p> <p>2)SDGs</p> <p>3)世界AIDS、結核、マラリア対策基金</p> <p>4)GAVI、EPI</p>	成瀬 和子
5	感染症 (CDs)	<p>世界的課題となっている感染症について学ぶ</p> <p>1)HIV</p> <p>2)マラリア</p>	成瀬 和子

科目コード【3503】

		3) TB	
6	看護師の国家間移動	世界的な保健人材不足とそれにより惹起された看護師の国家間移動について学ぶ	成瀬 和子
7	国際機関や多国間協定と役割	グローバルヘルスに取り組む国際機関や多国間協定の役割について学ぶ 1) WHO 2) UNICEF 3) ICN 4) 日本の国際協力政策	成瀬 和子
8	資源の少ない環境での医療	1) 健康と医療への障壁 2) 個人や集団の健康改善のための戦略	成瀬 和子
9	国際看護と異文化看護	多文化共生社会に必要なレイニンガーの異文化間看護論について学ぶ	成瀬 和子
10	国際看護活動の実際	国際看護活動の実際について具体例を通して学ぶ	成瀬 和子
11	諸外国の看護政策と看護教育	諸外国の看護政策と看護教育 について学ぶ	成瀬 和子
12	開発途上国における健康課題と対策(演習)①	ある国を取り上げ、その国の健康課題を抽出し対策についてグループで考える	成瀬 和子
13	開発途上国における健康課題と対策(演習)②	ある国を取り上げ、その国の健康課題を抽出し対策についてグループで考える	成瀬 和子
14	GW発表会①	グループワークの結果を発表する	成瀬 和子
15	GW発表会②、まとめ	グループワークの結果を発表する 学習のまとめをする	成瀬 和子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
地域看護学演習Ⅱ (地域看護活動)	専門科目	1単位 (30時間)	自由	4年前期	演習
	コミュニティ ヘルスケア				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 鈴木 良美 [担当教員] 鈴木 良美、成瀬和子、吉岡京子		講義終了後・研究室			
授業のねらい	コミュニティにおける看護活動を展開するための基本技術である地域看護診断のプロセスを通して、コミュニティの健康問題を把握し施策化するための基礎的能力を養う。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 地域における対象(個人・家族・集団・地域)をとらえる方法である地域診断の目的と方法について説明できる。 2. 理論を用いて情報を包括的に収集・統合しアセスメントできる。 3. 地域診断のプロセスを通し地域の健康課題を明確化できる。 4. 健康課題の対策を考えることが出来る。				
教科書	1. 標 美奈子ほか：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 (購入済) 2. 厚生労働協会編：国民衛生の動向・厚生指標 増刊 2016年8月発行 3. 中村裕美子編集：標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院				
参考図書	1. 金川克子編：地域看護診断 技法と実際 第2版、東京大学出版会、2011。 2. 金川克子翻訳：コミュニティアズパートナー—地域看護学の理論と実際 第2版、医学書院、2007。 3. 水嶋春朔：地域診断のすすめ方 根拠に基づく生活習慣病対策と評価 第2版、医学書院、2006。				

科目コード【3707】

	<p>4. 岡本玲子責任編集：公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動Ⅰ、医歯薬出版株式会社</p> <p>5. 佐伯和子編著：地域看護アセスメントガイド アセスメント・計画・評価のすすめかた 医歯薬出版株式会社、2007</p>
評価方法	<p>ミニテスト（10%）、定期試験（40%）、グループワークでの態度・貢献度（10%）、地域診断レポート（個人30%、グループ10%）により総合的に評価する。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とみなす。</p> <p>再試験は実施しません。</p>
課題に対するフィードバック	<p>情報収集とアセスメントの途中経過をフィードバックする。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：保健行政論を復習しておくこと。事前に必要な資料を収集し、目を通してから演習に臨む。</p> <p>事後学習：地域診断は実習でもおこなうので、理論を復習し各自で情報を整理し実習において保健師に説明できるようにしておく。</p> <p>事前・事後学習には0.5時間以上の時間を充てること。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	地域診断の展開過程①：地域診断のすすめ方	公衆衛生看護における地域診断の意義・目的・理論について学ぶ	鈴木良美
2	地域診断の展開過程②：地域診断の方法	地域診断の展開方法について学ぶ	鈴木良美
3	グループワーク①	実習地域の地域診断をグループでおこなう。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
4	グループワーク②	実習地域の情報収集とアセスメントの実施。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
5	グループワーク③	実習地域の情報収集とアセスメントの実施。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
6	グループワーク④、地区踏査オリエンテーション	実習地域の情報収集とアセスメントの実施。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
7	グループワーク⑤、地区踏査オリエンテーション	実習地域の情報収集とアセスメントの実施。 地区踏査についてのオリエンテーションをおこなう。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子

科目コード【3707】

8	地区踏査 1 Photovoice グループワーク	実際に実習地域を歩き情報を収集する。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
9	地区踏査 2 Photovoice グループワーク	実際に実習地域を歩き情報を収集する。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
10	地区踏査 3	実際に実習地域を歩き情報を収集し分析する。特別区の学生は帰校し Photovoice のグループワークを実施する。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
11	地区踏査 4	実際に実習地域を歩き情報を収集し分析する。 特別区の学生は帰校し Photovoice のグループワークを実施する。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
12	グループワーク⑥：情報分析、健康課題の明確化 1	収集した情報を総合的にアセスメントする。 上野原の学生は Photovoice のグループワークを実施する。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
13	グループワーク⑦：情報分析、健康課題の明確化 2	収集した情報を総合的にアセスメントする。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
14	グループワーク⑧：情報分析、健康課題の明確化 3	収集した情報を総合的にアセスメントする。	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
15	グループワーク⑨：情報分析、健康課題の明確化 4 まとめ	収集した情報を総合的にアセスメントする。 地域診断のまとめ	鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
地域看護学実習	専門科目	4単位 (45時間)	自由	4年前期	実習
	コミュニティ ヘルスケア				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 吉岡京子 [担当教員] 鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子		実習期間中は、教員が各実習先を巡回訪問する。このためオフィスアワーは教員訪問時とし、場所は実習先の実習生控室とする。			
授業のねらい	健康問題を生活者としての視点からとらえ、地域社会で生活している個人、家族、集団、地域を対象とした看護活動の展開方法を学ぶとともに、地域ケアシステムにおける看護職の役割を理解する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 地域の特性と地域住民の健康状態を把握し、地域の健康問題・ヘルスケアニーズを理解する。 2. 地域の健康の向上や健康問題の解決のために、看護職が展開している看護活動の意義と方法を理解し、実践する。 3. 地域の健康の保持・増進、疾病の回復と予防をねらいとする地域ケアシステムにおける看護職の果たす役割について理解する。				
教科書	標準保健師講座 1 地域看護学概論 医学書院 (購入済み) 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 (購入済み)				
参考図書	厚生指針・増刊 国民衛生の動向、厚生労働統計協会。 保健師業務要覧 2017年版、井伊久美子・荒木田美香子・松本珠実・堀井とよみ・村嶋幸代・平野かよ子 編、日本看護協会出版会。				
評価方法	実習目標の達成度、実習に取り組む姿勢・態度、記録・レポート等により総合的に評価する。 評価の対象は 2/3 以上出席したものを評価の対象とする。実習目標と評価の視				

科目コード【3708】

	<p>点に則り、到達目標の達成状況、実習への取り組みの姿勢・態度、実習記録の内容、カンファレンスへの参加度、面接、出席状況などから総合的に評価を行う。</p> <p>・評価は A、B、C、D の 4 段階で行い、A、B、C を合格とする。</p> <p>※原則として補習実習は行わない。</p>
<p>課題に対する フィードバック</p>	<p>実習中に実習記録等を確認し、フィードバックする。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p>・地域看護学演習Ⅱで地域ごとに地域看護診断を実施する。実習開始前までに実習先の地域の概要について理解しておく。</p> <p>・事前学習として本日の計画・目標を立案し、事後学習として本日の学びについて記録を作成する。家庭訪問や見学予定の事業がある場合には、様式に則り事前に計画を事後に記録を作成する。事前・事後学習には各 1 時間を充てること。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
		<p>別途配付する実習要項に則り、実習を展開する。</p>	<p>鈴木良美 成瀬和子 吉岡京子</p>

科目コード【1503】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
英語Ⅲ (英論文の読解)	一般教育科目	2単位 (15時間)	選択	4年後期	講義
	グローバル コミュニケーション				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 小島 多香子 [担当教員] ポピエル・ヘレナ明子 バロガ・エドワード		昼休み (金曜)、教員控え室 *その他の時間は病院にいるため、事前に電話またはメール でアポイントメントを取ってください。			
授業のねらい	国際雑誌などを読解するために必要な基礎力をつけます。また、英語で自分の意見を表現するための、コミュニケーションスキル及びライティングスキルを身につける練習をします。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 医療・看護に関連するテキストを読み、読解力を身につける。 2. 医療関連トピックについて英語で自分の意見を述べる力をつける。 3. 医療関連トピックについて英語で文章を作成するスキルを身につける。				
教科書	1. Stay Healthy: Paul Stapleton, Cengage Learning K.K. 2009 2. その他に本学学生向けに当分野で作成された教材を使用する。				
参考図書					
評価方法	Participation 40% Exam 60%				
課題に対する フィードバック					
事前・事後学習	テキストを事前に読み、わからないところは質問すること。				

科目コード【1503】

授業回数	項目	講義内容	担当者
1		Selected Reading: Healthy Japan (Ch. 1) Discussion, Writing	ポピエル・ヘレナ明子
2		Selected Reading: Health and Evolutionary Psychology (Ch. 2) Discussion, Writing	小島 多香子
3		Selected Reading: Natural Defense (Ch. 3) Discussion, Writing	ポピエル・ヘレナ明子
4		Selected Reading: Race and Health (Ch. 4) Discussion, Writing	小島 多香子
5		Selected Reading: Understanding Medical Studies (Ch. 5) Discussion, Writing	ポピエル・ヘレナ明子
6		Selected Reading: Cancer (Ch. 6) Discussion, Writing	小島 多香子
7		Selected Reading: The World's Most Common Disease (Ch. 7) Discussion, Writing	ポピエル・ヘレナ明子
8		Selected Reading: Instant Noodles (Ch. 8) Discussion, Writing	小島 多香子
9		Selected Reading: Supplements (Ch. 9) Discussion, Writing	ポピエル・ヘレナ明子
10		Selected Reading: The New Global Epidemic (Ch. 10) Discussion, Writing	小島 多香子
11		Selected Reading: Health and Genes (Ch. 11) Discussion, Writing	バロガ・エドワード
12		Selected Reading: Mental Health (Ch. 12) Discussion, Writing	バロガ・エドワード
13		Selected Reading: Addictions (Ch. 13) Discussion, Writing	バロガ・エドワード
14		Selected Reading: Antibiotics (Ch. 14) Discussion, Writing	ポピエル・ヘレナ明子
15		Selected Reading: The New Nutrition (Ch. 15) Discussion, Writing	小島 多香子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護倫理Ⅱ（事例分析）	専門科目	1単位 (30時間)	選択	4年後期	演習
	看護の基礎				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 小室佳文 [担当教員] 小室佳文、鈴木祐子		講義日の授業終了後から放課後 小室(第一看護学科棟 405 研究室) komuro@tokyo-med. ac. jp 鈴木(第一看護学科棟 404 研究室) syuko410@tokyo-med. ac. jp			
授業のねらい	倫理的意思決定を行うための枠組みを学び、看護実践等で生じる倫理的課題の解決に向けた介入のあり方を学ぶ。さらに、倫理的意思決定のスキルを習得する。また看護実践 において生じる倫理的課題について、具体的に学習する。授業は主にグループワークおよび個人ワークで展開し、学生が主体的に議論できる機会を多く提供する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 看護の場での倫理実践を支えるために必要な、理論や体制について理解することができる。 2. 看護の場における倫理上の意思決定と倫理上のジレンマ、意思決定に影響する要因について理解することができる。 3. 具体的な事例に対し、倫理的意思決定モデルを活用し、倫理的な課を検討し、倫理的な側面から分析することができる。				
教科書	特になし 随時、資料を提示します				
参考図書	看護倫理Ⅰ講義資料 サラ T. フライ著、片田範子訳；看護実践の倫理（第3版）、日本看護協会出版会、2010 隈本邦彦著；ナースが学ぶ「患者の権利」講座、日本看護協会出版会、2006				

科目コード【3103】

	<p>アルバート・R・ジョンセン著、赤林朗他監訳；臨床倫理学(第5版)、新興医学出版社、2006</p> <p>箕岡真子・稲葉一人著；わかりやすい倫理、ワールドプランニング、2011</p>
評価方法	<p>成果内容、グループ学学習の参加状況、成果、授業態度で評価します。</p> <p>1. グループワークの成果内容 (40%)</p> <p>2. 課題レポート① (20%)</p> <p>3. 課題レポート② (40%)</p>
課題に対するフィードバック	<p>グループ発表、課題に対して、授業中に随時フィードバックする。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：「看護倫理Ⅰ（基礎）」の復習、および「看護展開実習Ⅰ～Ⅴ」の受け持ち事例について実習記録を見直しておく。</p> <p>事後学習：事例検討では、①4分割法による分析方法の理解②事例に生じている倫理的葛藤の把握③解決方法の提案、ができていないか振り返り、整理して次回に臨む。専門職の実践からは、自己の実践にどのように生かすことができるかを考察する。</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	オリエンテーション	<p>1) 看護実践における看護倫理の基本的理念、概念についての確認</p> <p>2) 本科目の学習方法、進め方について</p> <p>3) 事例検討の進め方について</p> <p>・臨床倫理4分割法</p> <p>4) グループ編成および学習計画の立案</p>	小室、鈴木
2	事例検討Ⅰ (グループワーク)	<p>1) 倫理的なジレンマ、意思決定に関わる事例検討を通して学ぶ。</p> <p>2) 倫理的判断の指標や枠組みを理解する。</p> <p>3) 事例分析</p> <p>提示した4事例について、グループで課題に取り組む。</p>	小室、鈴木
3	事例検討Ⅰ(グループワーク)	事例分析	小室、鈴木
4	事例検討Ⅰ(グループワーク)	事例分析	小室、鈴木
5	事例検討Ⅰ(グループワーク)	事例分析	小室、鈴木
6	事例検討Ⅰ(グループワーク)	事例分析	小室、鈴木
7	中間発表	4事例について、倫理的な側面から分析した内容を発表する。	小室、鈴木
8	中間発表	4事例について、倫理的な側面から分析した内容を発表する。	小室、鈴木

科目コード【3103】

9	事例検討Ⅱ（個人ワーク）	オリエンテーション 事例検討の進め方、事例の準備	小室・鈴木
10	看護実践における倫理的問題	現場で倫理的問題に直面している専門職から、具体的な事例やその解決方法を学ぶ。 （講義、事例検討会、研修会参加など）	小室、鈴木
11	看護実践における倫理的問題	現場で倫理的問題に直面している専門職から、具体的な事例やその解決方法を学ぶ。 （講義、事例検討会、研修会参加など） 課題レポート①の提示	小室、鈴木
12	事例検討Ⅱ（個人ワーク）	事例検討Ⅰの学びを参考にして、自身の実習での体験から事例におこし分析をする。具体的な対応や介入について検討する。	小室、鈴木
13	事例検討Ⅱ（個人ワーク）	事例検討Ⅰの学びを参考にして、自身の実習での体験から事例におこし分析をする。具体的な対応や介入について検討する。	小室、鈴木
14	事例検討Ⅱ（個人ワーク）	事例検討Ⅰの学びを参考にして、例検討会や当事の経験を事例におこし分析をする。具体的な対応や介入について検討する。	小室、鈴木
15	個人ワークの共有 まとめ	事例検討した内容をグループ間で共有する。 課題レポート②の提示	小室、鈴木
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
統合援助技術	専門科目	1単位 (30時間)	選択	4年次 後期	演習
	看護援助の方法				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]永島 美香 [担当教員] 阿部幸恵、春日広美、伊藤綾子、 清水典子、西村礼子、岩田尚子		授業後および随時（アポイントによる） 永島 m-naga@tokyo-med.ac.jp 阿部 y-abe@tokyo-med.ac.jp 伊藤 ayaito@tokyo-med.ac.jp 春日 hkasuga@tokyo-med.ac.jp			
授業のねらい	臨地での看護実践力につながるよう、基本的看護援助技術を中心としたシミュレーション学習を通して、医療安全、感染管理、医療倫理、コミュニケーション力など看護実践力に必要な知識と技術を再確認し、卒後看護実践の場で必要とされる実践力の基盤づくりを行う。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 統合的な知識と技術を活用し、基本的な援助技術が実践できる。 2. シミュレーション学習を通して、対象に必要な看護援助技術を実践できる。 3. シミュレーション学習を通して、医療安全、感染管理、医療倫理、コミュニケーション力など看護実践力に必要な知識と技術を再確認し、卒後での看護実践力の基盤づくりができる。				
教科書	必要時にこれまでに使用したテキストや資料を提示する。				
参考図書	必要時に紹介する。				
評価方法	課題への取り組み 70%、レポート 30%				
課題に対する フィードバック	授業中および授業後に個人および集団に対してフィードバックを行う。				

科目コード【3321】

事前・事後学習	<p>事前課題を必ず仕上げしてから授業に臨んで下さい。</p> <p>事後学習は、授業での内容を振り返り、課題レポートを期限までに仕上げてください。</p>
----------------	--

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	ガイダンス	授業の進め方と学習方法 ディブリーフィングの方法と実践	永島美香
2 3	成人期・老年期の看護援助方法①	成人期・老年期の看護援助方法の実践① ・対象者とはじめて関わる場面の看護シミュレーション	永島美香、阿部幸恵、伊藤綾子、清水典子、西村礼子
4 5	成人期・老年期の看護援助方法②	成人期・老年期の看護援助方法の実践② ・患者の観察場面の看護シミュレーション	永島美香、阿部幸恵、伊藤綾子、清水典子、西村礼子
6 7	成人期・老年期の看護援助方法③	成人期・老年期の看護援助方法の実践③ ・呼吸困難感のある患者に対する看護シミュレーション	永島美香、阿部幸恵、伊藤綾子、清水典子、西村礼子
8 9	成人期・老年期の看護援助方法④	成人期・老年期の看護援助方法の実践④ ・意識消失した患者に対する看護シミュレーション	永島美香、阿部幸恵、伊藤綾子、清水典子、西村礼子
10 11	在宅看護場面の看護援助①	在宅看護場面での統合的な看護援助方法の実践① ・ALS で在宅人工呼吸器を装着した療養者の身体と生活の観察場面の看護シミュレーション	春日広美、岩田尚子
12 13	在宅看護場面の看護援助②	在宅看護場面での統合的な看護援助方法の実践② ・ALS で在宅人工呼吸器を装着した療養者と家族へのケア提供場面の看護シミュレーション	春日広美、岩田尚子
14 15	基本的援助技術の実践	課題に応じた看護援助方法の実践 ・輸液管理、血液検査、ドレーン管理 ・呼吸循環管理：酸素吸入、モニター装着 ・バイタルサイン	永島美香、阿部幸恵、伊藤綾子、清水典子、西村礼子
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
防災教育論	専門科目	1単位 (15時間)	選択	4年後期	講義
	グローバルヘルス				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 大村 誠 [担当教員] 大村 誠		メールにて対応 omura@cc.u-kochi.ac.jp			
授業のねらい	地殻活動の活発化や地球温暖化の影響と人間社会の変化もあって、地震、津波、火山、気象災害、土砂災害などが、頻繁に起こるようになっている。この科目では、まず、自然災害そのものについての理解を深める。つぎに、自分たちを含めた住民やコミュニティが自発的・能動的・継続的に防災の取り組みを進めるための防災教育について考える。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	災害・防災の基礎知識、災害の教訓を学び、対象地域の住民やコミュニティの特徴を踏まえた防災教育について考える。 1. 現代の日本で想定される自然災害の概要を理解する。 2. 受講生にも必要な、近年の災害の教訓を学ぶ。 3. 社会における防災・減災の取り組みの概要を理解する。 4. 個人と社会が効果的な「備え」を着実に進めるための防災教育を考える。				
教科書	・授業に必要な印刷資料は、2コマ分ごとに授業開始時に配布します。				
参考図書	①東京都オリジナル防災ブック「東京防災」 ・H27年に東京都下全世界に配布済み冊子を持っていない人は下記のサイトからダウンロードできます。 http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2015/08/20p8I300.htm ②平田 直：首都直下地震、岩波新書（新赤版）1592、岩波書店、2016。 ③河田恵昭：日本水没、朝日新書 571、朝日新聞出版、2016。 ④山岡耕春：南海トラフ地震、岩波新書（新赤版）1587、岩波書店、2016。				

科目コード【3504】

	<p>⑤巽 好幸：富士山大噴火と阿蘇山大爆発、幻冬舎新書 419、幻冬舎、2016.</p> <p>⑥鎌田浩毅（監修・著）：せまりくる「天災」とどう向き合うか、ミネルヴァ書房、2015.</p>
評価方法	定期試験等（80%）、出席等受講態度（20%）により、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	小レポートの回答についてはつぎの授業で講評し、回答を考慮してつぎの授業の内容・方法を逐次修正する。期末課題の回答については、講評を通知する。必要に応じて、メールまたは面談で個別指導することもある。
事前・事後学習	事前学習：東京都オリジナル防災ブック「東京防災」に目を通すことを推奨する。 事後学習：授業で視聴した映像と配布した資料とを関連づけて復習し、自ら集めた資料も参考にレポートを作成する。

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	防災・減災の基礎	災害とは、「助かる防災」と「助ける防災」、自助・共助・公助、看護のプロへの期待	大村 誠
2	近未来の日本における大災害(1)	想定される、首都直下地震、大規模水害、噴火、南海トラフ巨大地震による災害	大村 誠
3	近未来の日本における大災害(2)	想定される、首都直下地震、大規模水害、噴火、南海トラフ巨大地震による災害	大村 誠
4	医療関係機関の防災	医療関係機関の事例と備え 事後に、1～4回に対する小レポート	大村 誠
5	災害時の人間の心理学と行動	災害心理（正常性バイアス、同調バイアスなど）、防災教育の課題	大村 誠
6	防災教育の事例	おもに児童・生徒、住民に対する防災教育 事後に、5～6回に対する小レポート	大村 誠
7	災害の教訓 と 全体の補足説明	近年の災害の教訓の再確認、補足説明	大村 誠
8	まとめ	防災教育についてまとめ	大村 誠
—	定期試験		

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
地域看護管理論	専門科目	1単位 (15時間)	自由	4年前期	講義
	コミュニティ ヘルスケア				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 吉岡京子 [担当教員] 吉岡京子		オフィスアワーは毎回講義終了後、昼休みに 411 研究室にて質問等を受け付ける。事前にアポイントを取ること。 メールでも随時受け付ける (kyoko@tokyo-med.ac.jp)。			
授業のねらい	地域で活動する看護職には「地域で看護する」力と「地域を看護する」力の双方が不可欠である。本授業では主に保健師を題材とし、この両者の力をバランスよく発揮していく上で不可欠な地域の健康問題を未然に防ぐ能力や、他職種と共に活動できる能力など総合的な地域管理能力について学ぶ。本科目は地域看護学実習での学びを深めるために役立つものである。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 地域における看護管理の仕組みについて説明できる。 2. 地域の特性を活かした社会資源の開発、計画策定、管理の一連のプロセスについて理解できる。 3. 地域における看護ケアの質の保証と倫理的課題について説明できる。				
教科書	スーパーバイズでお悩み解決！地域における支援困難事例 15. 吉岡京子, 吉永陽子, 伊波眞理雄. 医学書院, 2016.				
参考図書	保健師業務要覧第3版. 井伊久美子・荒木田美香子・松本珠実・堀井とよみ・村嶋幸代・平野かよ子 編著. 日本看護協会出版会.				
評価方法	定期試験 (50%)、受講態度・授業への参加度 (20%)、グループワーク (30%) により総合的に評価する。原則として再試験は実施しない。国家試験対策として毎回講義の中でミニテストを行うが、成績には含めない。				
課題に対する フィードバック	定期試験の正答率が20%以下だった問題はe自主自学上でフィードバックする。				

科目コード【3707】

事前・事後学習	<p>事前学習：講義で使用する資料は、事前にe自主自学上にアップする。資料および指定された教科書の一部を読みし、不明点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：毎回ミニテストを授業終了前に行う。間違えた点についてはノートに整理し、復習を行うこと。</p> <p>事前・事後学習には0.5時間以上の時間を充てること。</p>
----------------	---

授業回数	項目	講義内容	担当者
1	地域看護管理の目的と機能	地域における管理とは何か、その目的と機能、保健師活動指針について理解する。	吉岡
2	組織運営と管理	組織目的、各部門の役割、指示系統の確認、他部門との連携・協働、人事管理（人員配置を含む）、人材育成について理解する。	吉岡
3	予算の執行管理と決算	保健事業の予算編成・確保、決算について理解する。	吉岡
4	地域の特性を活かした社会資源の開発と管理	地域の特性を活かした社会資源の開発、計画策定、管理について理解する。	吉岡
5	地域ケアの質の保証	サービスの質の評価・改善への支援、ケアの継続的・包括的展開、他職種・他機関との課題の検討について理解する。	吉岡
6	地域ケアにおける倫理的課題	職員と住民の権利保障、職業倫理、ケア提供時に直面する倫理的課題について理解する。	吉岡
7	地域ケアにおける情報管理	情報管理に関する法制度、記録の作成と情報公開、個人情報の保護について理解する。	吉岡
8	地域における健康危機管理、まとめ	地域における健康危機発生時の対応と地域看護管理論でのまなびについて総括する。	吉岡
—	定期試験		

科目コード【3505】

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
国際看護 フィールドワーク(海外)	専門科目	2単位 (30時間)	選択	4年通年	演習
	グローバルヘルス				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 成瀬 和子 [担当教員] 成瀬 和子、伊藤綾子、		火曜日 13:00~14:00			
授業のねらい	世界で起きている国内外の健康問題について、生理学的要因だけでなく、社会・文化的要因や環境的要因について、事例やフィールドワーク等の体験を通して考える。そして、異なる国や文化をもつ人々の生活を理解し、グローバルな視点から健康問題を捉え、国際社会における看護活動および看護の果たす役割について考える。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連 (□にチェックする)	<input type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	A student will be able - to describe the health situation and health problems in Philippine - to explain the health system in Philippine - to explain the social determinants of health in Philippine including the People's attitudes toward health - to describe in which areas nursing is provided and what are nurse's role in the area - to communicate with students, tutors, nurses, and people of Philippine in English				
教科書	NIL				
参考図書	Same as the list of "Global Health Nursing."				

科目コード【3505】

評価方法	Study Attitude(20%), Group Work and Presentation (15%×2)、 Final Report (20%)、Field work record (30%)
課題に対する フィードバック	Comment at the lecture and a report.
事前・事後学習	Review the lecture of Community Health Nursing and Global Health Nursing. Study Philippine's society and culture in advance. Being used to talking in medical English.

授業 回数	項 目	講義内容	担当者
1	Orientation, Study on the society and health status of Philippine ①	Orientation, study on the allocated theme by a group.	Kazuko Naruse
2	Study on the society and health status of Philippine (group work) ②	Gather and analyze the information regarding Philippine.	Kazuko Naruse
3	Study on the society and health status of Philippine (group work) ③	Gather and analyze the information regarding Philippine.	Kazuko Naruse
4	Study on the society and health status of Philippine (group work)④	Gather and analyze the information regarding Philippine.	Kazuko Naruse
5	Summary of learning (group presentation)①	Present study results.	Kazuko Naruse
6	Summary of learning (group presentation) ②	Practice for English writing.	Kazuko Naruse
7	Field work in Philippine①	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
8	Field work in Philippine②	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
9	Field work in Philippine③	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
10	Field work in Philippine④	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
11	Field work in Philippine⑤	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
12	Field work in Philippine⑥	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
13	Field work in Philippine⑦	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
14	Field work in Philippine⑧	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
15	Field work in Philippine⑨	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
16	Field work in Philippine⑩	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,

科目コード【3505】

授業回数	項目	講義内容	担当者
17	Field work in Philippine⑪	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
18	Field work in Philippine⑫	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
19	Field work in Philippine⑬	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
20	Field work in Philippine⑭	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
21	Field work in Philippine⑮	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
22	Field work in Philippine⑯	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
23	Field work in Philippine⑰	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
24	Field work in Philippine⑱	Replacement at health institutions.	Naruse K., Ito A.,
25	Field work in Philippine⑲	Review of the study.	Naruse K., Ito A.,
26	Field work in Philippine⑳	Farewell party	Naruse K., Ito A.,
27	Review of the study (Group work)①	Group discussion	Naruse K., Ito A.,
28	Review of the study (Group work)②	Group discussion	Naruse K., Ito A.,
29	Presentation ①	Present what learnt.	Naruse K., Ito A.,
30	Presentation ②	Present what learnt.	Naruse K., Ito A.,

科目	科目区分	単位数 (1単位 当たりの 時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
統合実習	専門科目	4単位 (45時間)	必修	4年次 通年	実習
	看護の統合				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]小室佳文 [担当教員] 阿部祝子 阿部幸恵 五十嵐涼子 伊藤綾子 岩田尚子 上野里絵 小野田舞 春日広美 神澤尚利 河田照絵 黒岩美幸 小林信 小林万里子 西塔依久美 清水典子 鈴木祐子 鈴木良美 瀬戸山陽子 田所良之 田中瞳 田村知子 永島美香 中島淑恵 成田みゆき 成瀬和子 西村礼子 久長正美 平井和恵 藤沼小智子 藤本薫 吉岡京子		臨地実習期間の前後は担当教員が個別に指示 臨地実習時は実習施設、あるいは担当が指定する連絡先			
授業のねらい	これまでの看護の学習や自身の体験の中で関心を持ち、深めたいことや達成したいことなど自身の学習課題を明確にし、実践および、付加的な方法によって探求する。この過程において、これまでに得た知識、技術、態度を自律的に統合する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> 看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 自己の学習課題を明確にすることができる。 2. 自己の学習課題に焦点をあてた実習計画を立案できる。 3. 知識、技術、態度を自律的に統合した活動ができる。 4. 実習における活動を考察し、記述してまとめることができる。 5. 自身の学習課題に関する今後の展望を述べるることができる。				
教科書	なし				
参考図書	ナーシンググラフィカ他、各領域より提示されたもの				

<p>評価方法</p>	<p>実習の到達目標に基づき、評価表で評価する。</p> <p>評価の視点 実習計画の立案、実習の内容（実習計画の遂行、実習態度）、実習記録、実習レポート</p>
<p>課題に対する フィードバック</p>	<p>各担当教員より随時フィードバックを行う。</p>
<p>事前・事後学習</p>	<p><事前学習>選択した専門分野および関連分野のこれまでの講義、演習の資料やテキスト、各論実習での実習記録などを復習して、習得した知識の確認を行う。各専門分野から出された事前課題を遂行する。</p> <p><事後学習>大学における最終実習であるため、臨床看護の実践において未だ不十分な知識、技術を明確にし、今後の自己学習、自己演習へとつなげること。</p> <p>*看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究は同じ看護分野・教員のもとで実施するので、計画的に学習すること</p>

実習内容と方法
<p>実習期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 5 月～10 月のうちの 20 日間 ・実習期間を複数回にわけるともある。 <p>実習場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習課題に適した実習施設で実習を行う。 (東京医科大学病院、東京医科大学八王子医療センター、病院、訪問看護ステーション、福祉施設など。) ・複数施設での実習も可能である。 <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習場との調整は教員が行うが、学生は教員の助言を得ながら自己の学習課題に沿って実習計画を立案し、主体的に実習をすすめる。 ・実習期間の 3/5 以上 (108 時間=12 日) は臨地での実習、2/5 (72 時間=8 日) は情報収集や学内日としてよい (自習時間を含む)。 ・自己の学習課題によっては、平日以外、日中以外の実習も可能である。

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
看護課題ゼミ	専門科目	2単位 (30時間)	必修	4年通年	演習
	看護の統合				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者]鈴木祐子 [担当教員] 阿部幸恵 阿部祝子 五十嵐涼子 伊藤綾子 岩田尚子 上野里絵 小野田舞 春日 弘美 神澤尚利 河田照絵 黒岩美幸 小林信 小林万里子 小室佳文 西塔衣久美 清水典子 平井和恵 鈴木良美 瀬戸山陽子 田所良之 田 中瞳 田村知子 中島淑恵 永島美香 成田みゆ き 成瀬和子 西村礼子 久長正美 藤沼小智子 藤本薫 吉岡京子		担当教員が学生個々に可能な時間・場所・連絡方法を提示する			
授業のねらい	これまでの学習の統括として、学生が興味・関心を持ち理解を深めたいと考える学習課題・テーマについて文献学習等、系統的方法を用いて探求する。ゼミナール形式での学習を通じて、他者と議論を交わし、看護の課題を探求する基本的能力を養う。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口 にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 学習課題やテーマに関わる知識を深め、広い視野で情報を収集し、分析・検討できる。 2. 各自のテーマを持ちより、ゼミナール形式で主体的に討論に参加できる。 3. 課題達成のための適切な探求方法を選択できる。 4. 課題達成のための適切な探求方法で看護の課題を考察できる。 5. 取り組んだ学習課題の成果を論理的に記述できる。 6. 取り組んだ学習課題を効果的にプレゼンテーションできる。 7. 1～6を通して、看護の課題を探求する能力や態度を養う。				

教科書	指導教員から随時提示する
参考図書	指導教員から随時提示する
評価方法	評価表を用いて評価する ゼミの参加状況：(50) % 看護課題ゼミレポート：(40) % 発表（プレゼンテーション）：(10) %
課題に対する フィードバック	各担当教員より随時フィードバックを行う。
事前・事後学習	ゼミに臨むにあたり、資料を作成し発表できるように準備すること。 グループメンバーの資料も必ず目を通すこと。 課題達成に向けて自主的に取り組むこと。 ゼミでのフィードバックを学習課題に活かし、次のゼミにつなげること。 *看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究は同じ看護分野・教員のもとで実施するので、計画的に学習すること

授業 回数	項目	講義内容	担当者
1~30	オリエンテーション 文献検索、データ収集 学生の発表、討議 学習成果のまとめ 成果発表会	ゼミナール形式で進めるが、課題に対する取り組みは個人で行う。 卒業研究を履修していない学生は、看護課題ゼミの成果のプレゼンテーションを行う。	各指導教員

科目	科目区分	単位数 (1単位当たりの時間)	必修・選択 区分	開講時期	授業形態
卒業研究	専門科目	2単位 (30時間)	選択	4年通年	演習
	看護の統合				
科目担当者		オフィスアワー・場所			
[科目責任者] 平井和恵 [担当教員] 阿部幸恵 阿部祝子 五十嵐涼子 伊藤綾子 岩田尚子 上野里絵 小野田舞 春日 弘美 河田照絵 小林信 小林万里子 小室佳文 鈴木祐子 鈴木良美 瀬戸山陽子 田所良之 田村知子 中島淑恵 成田みゆき 成瀬和子 藤本薫 吉岡京子		随時、各担当教員より指示する。			
授業のねらい	一連の研究プロセスを通し、看護現象に関する問題・課題を科学的・系統的に探求する力を習得すると共に研究論文を作成し、看護研究に取り組むための基礎的能力を修得する。				
学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連(口にチェックする)	<input checked="" type="checkbox"/> ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学を身につける。				
到達目標	1. 看護学における自己の関心や疑問、実践上の課題から研究課題を設定できる。 2. 研究課題に関する文献検索を行い、文献検討を行うことができる。 3. 研究目的とその意義を明確にすることができる。 4. 適切な研究方法を選定し、研究計画を作成できる。 5. 研究計画に従って、データ収集ができる。 6. データに基づき、適切に分析できる。 7. 分析結果を適切に考察できる。 8. 一連の研究プロセスから研究論文を作成できる。 9. 研究論文を効果的にプレゼンテーションできる。 10. 一連の研究プロセスを通して、看護研究に取り組む際に求められる態度・倫理を学ぶ。				

科目コード【3604】

教科書	各担当教員の指示に従う
参考図書	各担当教員の指示に従う
評価方法	評価表を用いて、取り組み状況、目標に対する到達度を担当教員が評価する。
課題に対する フィードバック	各担当教員より随時フィードバックを行う。
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心や疑問について、今まで学習してきたことや、最新の知見などについて情報収集しておく。 ・各自のタイムスケジュールに沿って、課題を明らかにし、それに取り組む。 <p>*看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究は同じ看護分野・教員のもとで実施するので、計画的に学習すること</p>

授業回数	項目	講義内容	担当者
1～30回	オリエンテーション 文献の検索・検討 研究計画作成 データ収集・分析 研究論文作成 研究論文提出 研究発表会	各担当教員の指導の下、研究計画を作成し、研究論文をまとめ、発表会でプレゼンテーションを行う。	各担当教員
—	定期試験		